

うっかりしている時

その人の味はうっかりしている時に出る。

うっかりしている時に出る味でなくては、真にその人のもち味とはいえない。

教育の一番ほんとうのところは、屢々、その人のもち味によって行なわれる。

まして、相手が、謂わば、最もいい意味で始終うっかりしている幼児たちである

場合、我々のうっかりしている時が、如何に教育的に大切なはたらきをなしてい

るかは考えらるる以上であらう。

うっかりいう言葉、うっかりする動作、出あいがしらに、うっかりと見せる

顔。その時出る我々のもち味こそ……

と云って、いくらいいもち味の人でも、うっかりばかりしてははなるまい。

と云ってまた、わがもち味をつつもうとして、うっかりしている時の全くないの

も、つくろいに過ぎよう。そこでこそ、幼児教育はむつかしいものと、昔も今も

いわれるのである。

(倉橋惣三選集 第三卷「育ての心」より)

幼児の教育 第七十三卷 第七号

七月号 ◎ 定価一七〇円

昭和四十九年六月二十五日印刷

昭和四十九年七月 一 日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎ 本誌御購読についての御注文は発売所
所フレーベル館にお願いいたします